

はじめに

みなさんは、昨日の夕ご飯は何を食べましたか？ ご飯はどこでつくられたお米か知っていますか？ 野菜は？ 肉や魚はどこから来たものでしょう？ 私たちが毎日食べるものは、人がどこかで育てたり獲ったりしています。

日本に稲作が伝わったのは縄文時代の終わり頃。米は広く日本各地でつくられました。平らな土地がない山では斜面を削って平らにし、川の水や湧き水を引き入れて田んぼをつくりました。しかし、水が得にくいなど米づくりに適さない地域もあります。そこでは畑をつくり小麦やいも、野菜を育てたり牛を放牧したりしました。人々は、知恵を使い、協力して、その土地の地形や気候に合う食料をつくってきました。その営みが農業です。

今、伝統的な農業を受け継いできた地域では、その方法を守りつつ新しい技術を取り入れる等により次世代につなげていく方法を探っています。各地の農業を知り、身近な農業に目を向けてみましょう。

食べているものが
どこでつくられたのか、
考えてみよう！

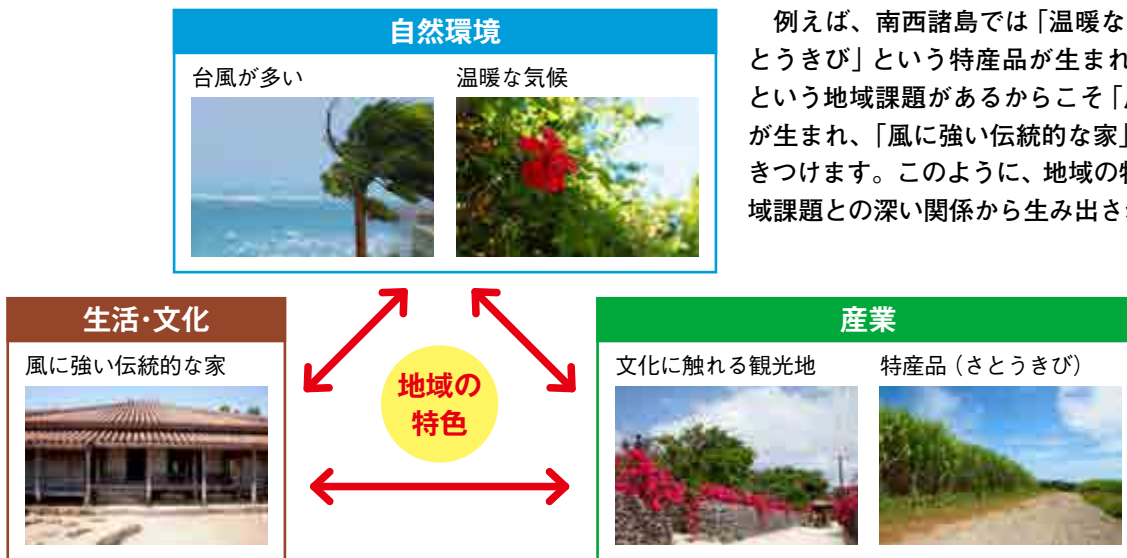


風の妖精 フーちゃん

農業の果たす役割

人々は自然環境に合わせ、課題を克服しながら農業を営んできました。農業は食料の生産だけではなく、その地域特有の伝統文化（祭りや慣習、郷土料理等）を生み出し、風景を築き、様々な生きものたちの命の拠り所をつくってきました。それが、地域の持つ特色・魅力を育ててきました。

地域の特色と農業の関係



例えば、南西諸島では「温暖な気候」だからこそ「さとうきび」という特産品が生まれます。「台風が多い」という地域課題があるからこそ「風に強い伝統的な家」が生まれ、「風に強い伝統的な家」は多くの観光客をひきつけます。このように、地域の特色は、自然環境や地域課題との深い関係から生み出されているものです。

世界農業遺産・日本農業遺産と地域の特色

社会や自然環境に適応しながら『何世代にもわたって継承されてきた独自性ある伝統的な農林水産業』『伝統的な農業によって育まれた文化』『農業によってつくられた景観』『生物多様性』、これらが関連して一体となり、地域の特色となっている重要な地域を「世界農業遺産」「日本農業遺産」に認定しています。

世 世界農業遺産
日 日本農業遺産

